平和協定に対する新労組員の声

本紙一面記事にあるように、春闘をすすめている職場で、いま平和協定のことが、重大な問題となってきている。

ここに紹介する数々の声は、平和協定に対する三池新労組員の率直な意見である。平和協定について、新労組員は果たしてどんな考えなのか？

やっぱり統一が第一

別々ではよくならぬ暮らし

三川鉱採炭工　鈴木高広さん

政府は物価は落ちついたというが、家族とちょっと遊びにゆけばすぐ二～三万円はかかる。だいたい、一日分の食事用の買いものだけでも千円では足りない。

一五％のガイドラインなんか、炭鉱のわれわれにはあてはまらない。一般労働者との間の大きな格差をしんぼうして働いてきたのだから、今年は昨年のように一方当たり千四百円とはいわないが、千二百円くらいの賃上げはすべきだ。

平和協定には反対。三池労組がストをするとき、五百円や団体奨励金の手当があるが、気持のよいものではない。

やっぱり労働者は、統一してたたかうべきだ。

四山鉱坑内電気工　斉藤秀雄さん

二十五万平均出勤して、手取り十四～五万円。晩酌とたまのパチンコが、唯一のレジャー。

そこに、すぐ公共料金の値上げが予定。どうなるか苦しい。

賃金は目やす単価できまるので固定せず、春闘前になると大幅に出来高給をひき下げる。賃金展開も何とかしなければ。

三池労組がスト突入のときは私たちも休みたいが、休めば職制からにらまれる。五百円もらっている。そんな金なんか問題ではない。

やっぱり平和協定の破棄だ。労働者がスト権をもたないのでは恥だし、賃金・労働条件もよくはならぬ。願っても、組織統一はむづかしいから、せめて下部の意見が反映される指導部を選ぶことだ。

港務所坑外雑夫・Tさん

会社回答は話しにならん。公休出勤・残業して手取り十万円。

三池労組がストのときは休みたいが、会社からはにらまれ、仕事もたまるから、仕方なく出る。

とにかく頼りは三池労組です。

四山鉱坑内機械工　長崎照邦さん

二十二万も出て、平均十二万円の手取り。

賃金も、体系に問題が多い。C級（請負）賃金は固定させて、本人給に繰り入れるべきだ。そうしないと、賃金展開のたびに賃金が下がる。だから、C級作業でもさらによい所に繰りこまれようと職制に色目を使い、仕事でお互いに競争することになる。みんな、無理して仕事に出ているのだ。

平和協定は、無記名投票できめるべきだ。半数以上が反対と出ることは確実。とにかく破棄。

宮浦指導部に寄せられたアンケートから

二三スト、四八ストでなく、連続してやれないものか。新労組についていえば、会社とのなれ合いを捨て、心から組合員の生活と健康を考える人と、役員をかえるときではないか。新労組員自体の考え方、体質も、自己中心的であると思う。この際平和協定はやめ、三池労組と新労組が一つの組合をつくりたい。同じ会社に二つの組合があることは、仕事の面でも安全の面でもよくない、と思う。

以上はすべて仮名にした。ほかにもたくさん、新労組員の率直な声を集めたが、紙面のつごうで割愛した。すくなくとも生活と命を守るために、平和協定を破棄していっしょになってたたかうことが共通のねがいだとわかった。

臼井地域分会闘争本部の掲示板にはられたアピール

穴があったらはいりたい気持

主婦・田添きみ子さん

本所の坑外で働く主人（新労組員）の収入で、中学三年の子ども三人の生活。何とかならないかの気持でいっぱいです。

三池労組はがんばっておられますが、私たちの組合（三池新労組）はどんな要求をしているのか、それさえわかりません。

いまの生活実態から、一方二千円の賃上げは絶対必要なのに、三池労組がストをされるときは気の毒で、穴があったらはいりたい気持です。

一日も早く組織がひとつになって、生活がよくなるようにしたいものです。

本紙の昭和三十八年十一月一日号の〝姿見〟で、三池主婦会宮浦支部の伊牟田瑞恵さんは、一週間後に待ち構えていた大災害を予知するかのように、平和協定について次のように書いています。

×

……就労後やがて三年を迎えんとする現在も、三井鉱山残酷物語とまで言われる第三次合理化、三池労組幹部の責任追及（三池闘争指導上の…）に対し、人間として苦しくとも頑張り続けているが、この闘いのきびしさは活字となり、マジック書きの情宣となって掲示板に。

就労後四十三名にのぼる尊い犠牲者を出す。組合員は一斉に、二日間にわたる時限ストに突入。主婦会は、掲示板に抗議のビラを貼る。

ビラはマジックで書いたお粗末なものではあるが――。

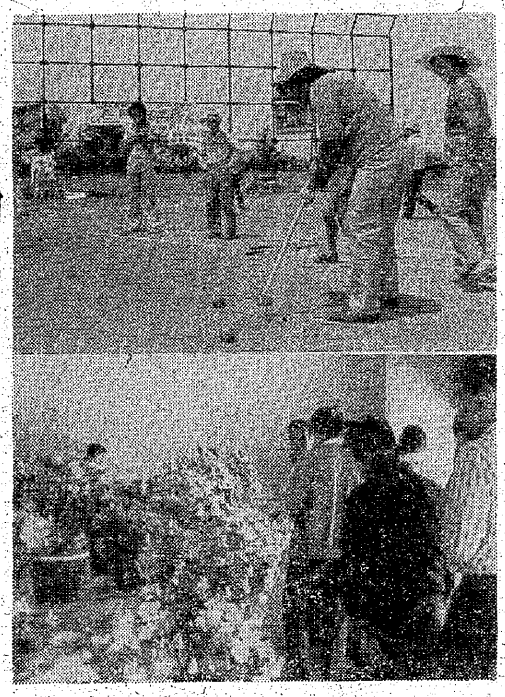
「夫たちの睡眠にどんなに気をつかい、いかに笑顔で送り出しても、それだけでは夫たちの生命は保障されないことを考えよう。

私たちは、水盃で夫を仕事場に送り出すことはもうごめんだ！」

と、生産第一主義、保安無視の会社に対し心からの憤りをこめた抗議のビラに、三池新労の主婦も、立ち止まって読んでゆく。

……働く者みんなが幸せになる日を築くため、しっかり大地に足をつけ頑張り抜きましょう。

水盃はごめん



写真上が、熱戦中のゲートボール大会。下がサツキ展のにぎわい。

長期闘争へイチャラ

文化・娯楽行事に余裕あり

▼…去月二十五日は日曜。三川新港地域分会と同主婦会分会共催で〝春闘・家族ぐるみゲートボール大会〟。小浜南と小川開地区も参加。新港グランドで十三チームが白熱戦。

優勝、藤本Aチーム。以下小浜南、藤本B、桃島チームの順。

▼…四山指導部では、同月二十八日〝春闘勝利団結ソフトボール大会〟開催。「この力が、三池炭鉱を変革するのだ」と、投げて、打って、走った。

▼…宮浦園芸部は、二十五日～二十八日の間勝立講堂で〝団結サツキ展示会〟開催。会長―伊藤義光さん。会員数三十五人。ズラリ並んだサツキ百十鉢。新労組員の愛好家も姿を見せ、ときならぬ交流風景も見られた。会員の一人・田上勇さんは―「やっぱり労働者は一つですよ」、とニッコリ。

にぎやかに文化・娯楽行事で、「長期闘争もヘイチャラ」といわんばかりの三池労組。

宮浦指導部払仕繰分会新聞
つなぎ、5月29日号

三池に学び、合理化と闘っています

大阪　古田イト子

前略。

私は、一昨年六月に開かれた第一回三池にまなぶ婦人集会に参加し、初めてこの目で、この体で三池のたたかいを知り、その後も毎月二回手にする新聞〝みいけ〟から、またあのとき泊めていただいた原万田社宅の岩田よし子さんとの交流の中からいろんなことを教えられ励まされながら頑張っています。

夫の職場であるプリマハムは全国に九つの工場を持つ食品メーカーの大手三社に数えられている会社ですが、一昨年の三月、一部の職制を使い労働組合の分裂をはかり、その後も第二組合と一体となり、不当差別や処分、支配介入等を続けています。

夫たちの必死のたたかいにもかかわらず労働条件の切り下げ、労働強化の中で、職場には労働災害が多発し、職制の厳しい監視のもとでトイレにも自由にいけない暗い職場となっています。

差別賃金で苦しい生活をおくっている夫や私たち家族に対して、この二月十四日、労働組合や働く者を無視した一方的な「工場閉鎖」「人べらし」（一千人の）を中心とする大合理化を発表しました。

職場では一方的な契約解除や出勤時の変更等による雇員、パートの首切りを強行に実施し、組合員には事前協議もせず、本人の意志を無視した配転命令を乱発し、なしくずし首切りをもくろんでいます。

プリマハム労組は、地域、産別の仲間に訴えながら、「生活と職場」を全労働者に保障させるために、たたかいに立ち上がっています。私たち主婦も、不十分ながら「生活を守るために、夫たちと一緒になってたたかおう」と立ち上がろうとしています。

身体がボロボロになるまで働かされ、企業の利益のためには犠牲はつきものといって夫たちの職場を奪い、私たち家族の生活をも奪おうとする資本を、許すことはできません。

私たちは今、三池から学んだことを生かしながらたたかい抜く覚悟です。

なにとぞ、私たちのたたかいに力強いご支援をお願い致します。

三池の皆さんは、第三回三池にまなぶ婦人集会の開催を目前に、準備に追われていられることと思います。

プリマからは、二人の仲間が参加することになりました。〝国際婦人年〟に開かれるこの集会が、意義のある集会となりますよう祈っております。

×

古田さんのご住居は「大阪府豊中市城山町一の一一の三〇」です。はげましてあげましょう。